

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館



目 次

図書館の魅力----- 1	大学図書館の思い出 ----- 5
三葛館での本との出会い----- 2	電子ブックのご案内 ----- 5
幽閉された期待のルーキー(但し、ヴェテラン) を救出した話 ----- 3	図書館活用のススメ ----- 6
ほっこりできる一冊 ----- 4	MIKAZURA NOW! ----- 6
	図書館サポーターズクラブ Lapo 活動報告 ----- 7
	平成 28 年度三葛館活動記録 ----- 8

図書館の魅力

医学部 教養・医学教育大講座（化学） 講師 多 中 良 栄

図書館が好きだ。もし有り余る時間と様々な余裕があれば、毎日図書館で暮らすように過ごしたいと思う。ただ最近では、図書館の利用といえば、必要な資料や書籍など目的の情報を得るためであることが専らである。そのような場合でも実際図書館に足を運ぶと、思いがけない本を借りていることがある。例えば目的の書籍のある書架の一つ隣の書架になぜか手にとってしまう本があったりする。タイトルに含まれる単語や文字なのか、装丁や字体などデザインのためなのか、理由は定かではないが、なぜかその時引き寄せられるようにその本を手にとらされてしまうような感覚だ。このような本には、探しても見つけれなかった、または探してもいなかったがその時の自分にとって重要な情報が含まれていることも間々ある。このような本との出会いを心待ちにして図書館内を徘徊しているのかもしれない。

本の魅力の一つは、先人の経験や思考が濃縮された知識に手軽に触れられることであると思う。試験や科目の履修に必要な知識の習得はもちろん重要だ。興味を持った分野や著者の本を重点的に読むのも

良いだろう。しかし自分で選ぶ服がいつも似たような雰囲気のものになりがちのように、それでは知識に偏りが生じがちだ。たまには何となく目に留まった本や人に薦められた本を手にして知識の幅を広げてみてはいかがだろうか。ちなみに三葛館では趣向を凝らした展示図書も多数企画され展示されている。その時、あるいは少し先で必要となる「知識」や「情報」が見つかるかもしれない。

三葛館での本との出会い

保健看護学部 教授 藤本 由美子

これまで大学の図書館は主に専門書の検索、文献複写の受け取りの場であるという感がありました。しかし、和歌山県立医科大学保健看護学部へ赴任し、三葛館のオリエンテーションを受けた時に専門書以外の本を多く見つけました。例えば、まだ読んでいなかった又吉直樹著「火花」や、食べることが好きな私には興味深い、よしもとばなな著「ごはんのことばかり 100話とちょっと」という本があり、思わず手にとってみました。また、NHKの朝ドラで放映されていた主人公である編集者が起業し、今も刊行されている雑誌「暮らしの手帖」もあり嬉しくなりました。三葛館ではこんな本とのめぐり合いが楽しみの一つです。

私は、小学生の頃は好きな本を読みはじめると家の手伝いをしないため、学校から帰る前に母が本を隠しており、いい加減に手伝いをすませ本を読むという日々でした。中学、高校生になるとテレビや映画鑑賞に夢中になり次第に本から離れていき、看護を学ぶにあたり本は必要に迫られて読むという状況でした。社会人になり様々なことに出くわすごとに、気がつくとな本を手にしていました。誰かに勧められたり、答えを本に求めたわけではありませんが……。今は、展示図書という見出しが目に留まり手にしたカズオ・イシグロ著「私を離さないで」を読んでいます。10年以上も前に発刊されたものですが、遺伝子工学の進展とともに人はどこに向かってすすむのだろうかという思いを抱きながら。

図書館は森の臭いがします。そして静かです。学生も教員もいる三葛図書館ですが私はほとんど他者を意識したことはなく一人の空間だと思えます。三葛館の環境、新しい本との出会いは何歳になってもわくわくするものです。



幽閉された期待のルーキー(但し、ヴェテラン)を救出した話

保健看護学部 教授 増田 匡裕

ルーキー・イヤーの教員にとって一番重要なのは、自分が担当する学生が何を知っていて何を知らないかを把握することです。私の場合、前任の岩原先生とは全く違う分野の社会心理学を専門としていますから、まず想定は不可能です。まず学生諸君の反応から自分が何を伝えるかを考えるということになります。だから基本的に「一方的に教える」つもりはありませんでした(たぶん気づいてないみたい)。

さて、3年次後期から始まる「保健看護研究Ⅱ」すなわちゼミですが、当然ながらお互い初対面です。何が気になるのかと訊いてみると「人と人との適度な距離感」というので、「それならば誰でも知ってる超有名文献を読むところから始めるけどね」とだけ、答えました。6月に着任早々担当した2年次「人間関係論」で紹介したばかりだったので、一応その旨呟いたつもりです。反応からすると、残念ながら前年度の授業では出てこなかったようです。そこで「その古典的文献見つけたら教えてね、1月の最後のゼミで教えるけど」と言いながら、敢えて全く別の方面からアプローチする文献(重たかったかな)を課題に出しました。それから6コマ、私の方はしらばっくれて1か月半待ちました。

さて解禁日です。自分が学部生のときに買って持ち歩いて研究室に置いているエドワード・ホルの『かくれた次元』(邦訳は1970年刊)を取り出して、普通の大学図書館なら所蔵していると伝えました。スマートフォンで検索したゼミ生が「ありました」と答えたのを聞いて、実はほっとしました。私は事前にOPACで確認していた訳ではありません。ただの「はったり」です。ただ私は三葛館には「普通の大学図書館」の役割もあると確信していたのです。

早速ゼミ生を三葛館に向かわせました。ところがなかなか帰ってきません。書庫に入っていたので時間が掛かったとのことでした。本を見ると葉紐が購入時のように深く食い込んで曲がったまま挟まれています。奥付を見ると1998年の刷りです。つまり、短期大学開学時の期待の選書だったのに、一度も開かれなまま書庫送りに身をやつし、幽閉されていたということです。私が着任しなければ、そのまま21年目を迎えていたと思います。漸く日の目を見ました。

では「普通の大学図書館」ではどうなのかと気になるでしょうね。実は私の前の職場の研究室のお隣は、異文化間コミュニケーション論担当のカナダ人の先生でした。この本はその専門科目の課題図書になっていましたが、彼の授業を見学したときに、誰もその本を読んで準備していませんでした。その後、ふたりで頭を抱えて教育談義をしたことも、今となっては懐かしい思い出です。



ほっこりできる一冊

助産学専攻科 特命教授 岡本 恭子

若いころはメガネをかけるということなど考えたこともなく、うんと遠くまで見える目を持っていました。40歳を過ぎた頃から、メガネが必要となり活字が読みにくくなり、本を読むことが苦になるなんて考えもしませんでした。寝る前がもっぱら読書の時間でした。最近では、メガネが必要なことを読書量が減った言い訳にしています。それでも出かける時は、必ず文庫本をバッグに入れます。電車が動きはじめて周囲の観察が一通り終われば、本を取り出して読み始めるのですが、数分で意識が消失して、また気づいて読んでを繰り返しているのと目的地に着いています。そのように、読むのは無理かなと思いつつ、出かける時には必ず1冊はバックに入れておきます。本が手元にあることで、出先の手持無沙汰が回避できるのです。私の本の情報源は新聞の広告欄です。ついつい、本屋大賞や店員さんおすすめ等々に引かれアマゾンで購入がパターンです。だから本の傾向は決まっていません。楽しそう、面白そう、読んでみたいと思えば手元に置いています。ここ数年、読む本は仕事に関係する内容のものが殆どですが、友人に勧められた「夜と霧」「愛するということ」など、生き方や考え方に影響を受けた本は今でも読み返すことがあります。

仕事上でとても緊張の日々を過ごしていた時に、「本日の水木さんー思わずところがゆるむ名言 366日」という本を、気が向いた時にその日付のところを読めばいいからという言葉と共にプレゼントして頂きました。心が緩みほっと肩の力が抜ける一冊でした。時々、今日は何かなとページをめくります。ある日の水木さんは「のんきに暮しなさい」と寝転がってます。ある日には「人間はいろんなものを食べますが、死んだら大地に食べられます」、12月31日は「ではまた、あの世で」。お正月には「好きの力を信じればいい」とさっぱり〜と流しながら、なるほど〜と感心したり、ほっこりさせてくれる一冊です。三葛館でもほっこりできる本を探します。

平成 29 年度保健看護学部卒業生の表彰を行いました！

平成 30 年 2 月 2 日に在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。
卒業生 1 人あたりの平均貸出冊数は 128 冊で、第 1 位の方の貸出冊数は 436 冊でした。
1 位の方の冊数が発表されると会場の 4 年生からワーッと歓声が上がりました。
勉強に娯楽にと三葛館の本を愛していただきうれしく思います。社会人として旅立たれるみなさん、在学中の読書体験がみなさまのこれからの人生の支えとなるようスタッフ一同お祈りしています。



大学図書館の思い出

医学部 教養・医学教育大講座（英語） 教授 廣 田 麻 子

私の学生時代に利用した大学図書館は、とても古い図書館でした。戦前からある石造りの建物で、戦争中はアメリカ軍が接収していたそうです。開架図書は全書籍のごく一部でしかなく、ほとんどの図書は書庫にありました。なので、自分で手にとって本を探すのではなく、カードで検索して司書さんに頼んで書庫に取りに行ってもらっていました。（今のようにインターネット検索はできませんでした。）書庫の本の中には、学生運動の名残りで水をかけられ変形したものもありましたが、司書さんは正確に本を探し当て、丁寧に大切に本を持ってきてくださいました。しだいに司書さんと顔なじみになり、うちとけるようにもなりました。大学院に進学すると、自分で書庫に入ることができるようになりました。段差が大きく、急勾配の石の階段をのぼったり降りたりして、自分で本を探せるようになりました。書庫は薄暗く、人気も少なく、ところどころにある小さな窓から光が差し込んでいましたが、その光線に沿って埃がチラチラと揺れていました。かび臭く、埃っぽいところでしたが、とても静かで、本に没頭することができる場所でした。その書庫には、エレベーターがありました。そのエレベーターの扉は、電動扉ではなくて、ゴムチューブが伸びたり縮んだりする力を利用して、手で開け閉めするものでした。エレベーターに乗ると、中からフック型の鍵をかけます。乗っているときは、いかにもロープで吊り下げられているような振動を感じました。その振動、埃、かび臭さ、そして、そこで出会った数々の本と、同じような本棚で出会った人々、これらすべてが私の大学図書館の思い出です。

電子ブックのご案内

和医大図書館では、参考図書や洋書を中心に電子ブックを導入しています。

電子ブックは、学内 LAN に接続されたどの端末からでも利用可能です。OPAC（蔵書検索）で「電子ブック」と入力すれば簡単に検索が行えます。また、図書館三葛館 HP の「電子ブック」欄の提供元一覧からアクセスすることも可能です。ぜひ、ご利用ください。

- ★ Maruzen eBook Library : 丸善株式会社による日本語電子ブック配信サイト
 - ★ Books@Ovid : Ovid 社が提供する医学系電子ブック配信サイト
 - ★ Wiley Online Library : Wiley 社が提供する電子ブック・電子ジャーナル配信サイト
- 三葛館電子ブック案内サイト : <http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/Ebook/index.htm>

平成 29 年度 保健看護学部図書館棟空調設備更新工事

三葛館は平成 30 年 2 月 17 日から 3 月 15 日まで空調設備の更新作業のため閉館しました。天井を取り外して古い配管類をすべて新しいものに差し替えるという、開館以来始めてとってよい大掛かりな工事となりました。この間、利用者みなさまにはご不便をお掛けいたしました。みなさまのご理解とご協力のお陰で無事、完了しました。



図書館活用のススメ

保健看護学部 教授 岩村 龍子

私が大学生の頃の話です。それまであまり図書館を利用していなかったため、いざ必要に迫られ図書館で文献を探そうとしたら、検索の仕方（今のようにコンピューターで検索できるわけではなく手間がかかるものでした）がわからず途方に暮れました。そんなとき、同じ学部の先輩の姿を見つけたので思い切って尋ねてみると、わずかな面識しかなかった後輩の私に懇切丁寧に探したいものを見つける方法を教えてくれたのでした。一見、頼りなそうに見える男性の先輩（現在某大学の教授をされています）でしたが、私の中で株があがったことは言うまでもありません。そこで思ったのは、図書館には蔵書や資料など山ほど所蔵されていますが、その活用方法を知らない者には、宝の持ち腐れになってしまうかもしれないことです。

学生の皆さんにとって図書館は常に身近にあるものであり、そのありがたさはあまり意識されないかもしれません。調べたいことがあれば、すぐに図書や文献にあたってみて解決できるということが、ありがたいことであるということ…、これは卒業して初めてわかることかもしれませんね。インターネットの普及により、調べたいことを検索するとすぐに概略的なことはわかっても、体系的な理解や深い意味付けの理解には至りません。特に看護専門職として社会に出る皆さんには、卒業後すぐに図書や文献の必要性が実感されることと思います。ぜひ、学生として過ごす今の時期に図書館の活用方法や図書館との付き合い方を学んでおくことをお勧めします。

平成 29 年度 展示図書テーマ一覧

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 第 79 回「図書館で新生活バージョンアップ」 | 第 83 回「参考図書はあなたの相談窓口です」 |
| 第 80 回「南方熊楠について知る」 | 第 84 回「Power of music」 |
| 第 81 回「人を創る・生み出す力=教養」 | 第 85 回「ものがたりを旅する」 |
| 第 82 回「本から学ぶ人を支えること。」 | 第 86 回「トクする情報リテラシー」 |

MIKAZURA NOW!

平成 28 年度 利用統計

年間開館日	301 日
入館者数	30,517 人
(1 日平均)	102 人
貸出人数	7,439 人
図書貸出冊数	24,550 冊
視聴覚資料貸出件数	133 点
相互利用依頼件数	588 件
相互利用受付件数	885 件
学外利用者数	687 人

三葛館の蔵書 2016

蔵書冊数	55,611 冊
うち洋書	7,976 冊
所蔵雑誌種数	1,006 種
うち外国語	145 種
年間受入図書冊数	2,457 冊
うち洋書	311 冊
年間受入雑誌種数	460 種
うち外国語	114 種
(2017/3/31 現在)	

図書館サポーターズクラブ Lapo 平成 29 年度活動報告

図書館サポーターズクラブ Lapo は、平成 23 年に結成して以来、図書館をより身近なものにし学生生活をより豊かなものにするために、学生の立場から様々な活動を行ってきました。

今年行ったたくさんの企画の中から主な活動をご報告いたします。

保健看護学部新入生オリエンテーション(4月)

新入生オリエンテーションの手伝いをし、図書館サポーターズクラブ Lapo についての説明を行いました。

和医大周辺ナビ@教員と新入生の交歓会(4月)

今年も学生ホールにおいて、本学の教員と新入生の交流の場となる「教員と新入生の交歓会」が開催されました。パワーポイントを用いて周辺のおすすめスポットやお店を紹介しました。また今回も新入生と教員に、Lapo オリジナルのガイドブック「和医大周辺ナビぶっく」を配布しました。

香港中文大学との交流会 (6月)

香港中文大学の留学生と英語でコミュニケーションをとりながら折り紙をしたり、日本の餃子と白玉団子などを作って食べました。濃厚な異文化交流を楽しめました。

蔵書点検作業のお手伝い(8月)

三葛図書館の蔵書の点検や整理をお手伝いしました。いつもお世話になっている図書館での仕事は、思い入れも強く大変やりがいがあります。

第 1 回 Lapo Book Café メッセージカードづくり Lesson (12月)

切り絵が得意な部員が中心となって、飛び出すカード作りをしました。皆伝えたい人を思いながら、それぞれにカードを作っていました。今回のカードは、ミュージックボランティア部との合同クリスマスコンサートで、緩和ケア病棟の患者さんやその家族の方に配らせていただきました。



附属病院緩和ケア病棟クリスマスコンサート(12月)

附属病院緩和ケア病棟で、歌やハンドベル演奏を披露しました。また作成したクリスマスカードを配布させていただきました。他の部活との合同の活動は初めての試みでしたが、お互いの部活が協力し合うことでより多くの学生が参加することができ、活動の幅が広がりました。

今後も図書館を学生生活の中でより身近なものにしてもらえるよう、三葛館の司書さんにも協力していただきながら Lapo のメンバー一同頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

(保健看護学部 3年 吉村瑞葵)

平成28年度（2016年度）三葛館活動記録

- 4月8日 第1回保健看護学部図書委員会
- 4月12日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
- 4月14日 保健看護学部 新入生オリエンテーション
医学部 新入生オリエンテーション
助産学専攻科 新入生オリエンテーション
- 4月16日 日本看護図書館協会 第26回総会（愛知医科大学：愛知）
- 6月22日 株式会社サンメディア 第12回学術情報ソリューションセミナー2016 in 大阪
（ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター：大阪）
- 8月8～12日 蔵書点検
- 8月25～26日 日本看護図書館協会 2016年度第49回研究会（九州看護福祉大学：熊本）
- 9月7～8日 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）版元提案説明会（一橋大学：東京）
- 10月5日 第2回保健看護学部図書委員会
- 10月6日 保健看護学研究科「英語文献講読」海外文献検索講義
- 10月25日 JMA 大学 SD フォーラム ID 入門セミナー（新大阪ブリックビル：大阪）
- 11月2日 保健看護学部「保健看護英語」海外文献検索講義
- 11月8～9日 第18回図書館総合展（パシフィコ横浜：神奈川）
- 11月27日 NPO 多言語多読 第3回シンポジウム in 多治見（ヤマカまなびパーク：岐阜）
- 11月15日 Lapo Book Café 2016（図書館サポーターズクラブ Lapo 共催）
- 11月22日 第3回保健看護学部図書委員会
- 12月27日 第4回 Lapo Aroma Café（図書館サポーターズクラブ Lapo 共催）
- 1月23日 第4回保健看護学部図書委員会
- 2月2日 平成28年度保健看護学部卒業生ベストリーダー表彰式
- 2月3日 保健看護学部西村ゼミ文献検索講義
- 2月14日 国立大学図書館協会 図書館職員研修会（東京工業大学：東京）

編集後記

第21号では、6人の先生方に三葛館へのご意見やご自身の読書体験、学生へのメッセージなどを自由に綴っていただきました。学生さんにとっては、先生方の普段とは違う意外な素顔が垣間見えたりもして楽しくお読みいただけたのではないかと思います。

1ヶ月間という長い工事閉館も無事終わり、三葛館はまた新たな気持ちでみなさまと歩んで参ります。

＝＝

平成30年3月30日発行

図書館報 みかづら（第21号）

編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館

〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地

TEL (073) 447-2300 (代表)

(073) 446-6721 (三葛館)

FAX (073) 446-6730 (三葛館)

<http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/>

＝＝